

世界の政治構造の変化に対応

田 英 夫

いま私は、参議院外務委員会の速記録を改めて読み直している。そこに登場する外務大臣は大平さんである。

「国務大臣（大平正芳君）この問題は日韓間における非常に不幸な事件であつて、この問題の処理を誤れば日韓関係というものが今後その運営がたいへんむずかしくなるという性質の事件であることは間違いないと思います」

実に理路整然としている。そして文章的にも明快である。もっとも速記録には「アー」とか「ウー」とかいう発言は載っていないから、耳で聞いたナマの答弁とは感じがまったく違つたのである。世間では大平さんといえば「とつ弁」の人と思つている人が多い。事実テレビなどで報道される大平さんは「アー」「ウー」の大平さんばかりであつたから無理もない。しかしハダカの大平さんはむしろ能弁であつた。

私は大平外務大臣当時、しばしば大臣室などに大平さんを訪ねた。私は野党の、しかも新米の外務委員であつたから、いまから思うとよく大平さんが会つてくださったものだと感じている。

そんなときの大平さんは実に滑らかに、よく話された。話題は当然、外交問題であつた。日中問題や朝鮮半島のこと、アメリカとの関係など、そして金大中氏事件のことを話し合ったこともあつた。

大平さんは人の話をきくのがうまかつた。私も次第に熱が入つて、ずいぶん生意気な意見をいつたこともある。そんな図に乗つた私の話を「ウン、ウン」とうなずきながら熱心にきいてくださった。そして次には大平さんの方から意見をいわれた。

それは大臣という立場を離れて、ひとりの先輩としての意見といった方がいいかもしれない。大臣としては、いつてはならないような率直なものだった。そんなときの大平さんは身を乗り出して、実に能弁に語られた。ときには私のヒザに手を置いて説得するような調子で話し続けられた。

私はいま世界の政治構造が大きく変わっていると思う。それはいわゆる東西対立とか冷戦構造とかいう、資本主義対社会主義というイデオロギーによる色分けの時代から、イデオロギーの違いを超えて、別の要素で動く時代に変わってきているということである。

日中平和友好条約の締結が実現できたことも、米中国交樹立もその現われであるし、ソ連のアフガニスタン侵攻、ベトナムのカンボジア侵攻といったこと、さらにはイラン・イラク戦争やポーランドの状況なども、イデオロギーの物差しでは計れない事態である。

私は大平さんとの会話のなかでこのことを確認することができた。大平さんという人は、いち早く、世界のこうした変化を読みとっていた政治家であった。そして日本の国内の政治についても、この新しい政治構造で考えようとしておられたと思う。イデオロギーに縛られず、その違いを超えてやるべきことを実行するということがある。

私は本当に惜しいと思う。残念である。日本の政治構造を変えることのできる人を失ったのが……。

(参議院議員・社会民主連合代表)